

財務責任者インタビュー



新たなクルマ社会の実現に向けて 強固な財務基盤で持続的成長を支える

執行役員 本社部門（経理部・財務部）担当役員
橋 淳

財務リスクを軽減する安全性重視の資金調達体制

サステナビリティ経営において財務の果たすべき役割は、資金の流れを維持し、持続的成長と安定的な経営を支える強固な基盤を構築することです。その中心にあるのが、安全性を重視した資金調達です。当社は、金利リスクを軽減し堅実な資金確保につながる長期固定金利による資金調達を主に行ってきました。長く続いた超低金利時代は日本銀行の金融政策転換で終焉を迎え、今後、「金利のある世界」への対応が重要になると考えますが、私たちは金利上昇を見通して、2023年度後半から長期固定金利での資金調達を先行して行い、足元を固めてきました。同時に、営業資産（主に自動車リース）の満期到来状況に合わせて借入の期間等を設定するALM（Asset Liability Management：資産・負債総合管理）を徹底しています。流動性リスクに対しては、十分な金額の当座貸越契約やコミットメントライン契約を締結していることに加え、取引金融機関は全国約70行におよび、返済・借り換えのタイミングも分散させることでリスクをミニマイズしています。

コロナ禍の社会情勢では、パンデミックや半導体不足の影響で自動車生産が大幅に遅れ、当社のリース事業においても新車入替が停滞しました。その結果、リース料やメンテナンス料などの収入が車両代支払などの支出を上回る状態が続き、借入金の返済を進める状況になりましたが、各行との協議を通じてバランスを取ることで、将来に向けた良好な取引関係の維持に努めました。

多様なステークホルダーと一体となり、新たなクルマ社会の実現を目指す

当社は、EVを今後の主要ビジネスと位置づけ、自動車リース業界におけるEV推進役となるべく事業活動を行っています。また、EVはカーボンニュートラル実現に向けた最大の解決策の一つと確信していますが、その市場を拡大するにはお客さまがEVを選択しやすい環境や選択肢を増やしていくことが不可欠です。そこで、IoTやAIを活用して、燃費向上やリース台数の最適化、安全運転につながる多角的なモビリティサービスも展開してきました。

資金調達手段の多様化を図るため、2018年から自動車リース業界初となる公募社債を発行しています。社債について投資家にご案内した際に、当社の環境配慮型車両普及促進の取り組みが国際的なグリーン適格基準にも適合するとご評価いただいたことをきっかけに社内で検討を進め、2020年にグリーンボンドの発行に至りました。さらに、高度な交通事故削減サポートなどを実現するために当社がパートナー企業と共同開発したモビリティサービス「SMAS-Smart Connect」が社会貢献につながるサービスであることから、2021年にはそれに用いる車載器の購入資金を用途に加え、サステナビリティボンドを発行しました。

これらの資金調達の手法は、より安全で環境にやさしいクルマ社会の実現に結びつくことはもちろん、投資家の皆さまは債券投資による収益を享受しつつ、投資表明を通じて環境・社会への貢献を積極的に示すことが可能となります。当社としても、サステナビリティへの取り組みに賛同してくださる投資家から広く支援を募ることができるようになりました。今後、サステナビリティボンドのプログラムを子会社にも拡大し、グループ全体でのサステナビリティ推進につなげていければと考えています。

SMASのサステナビリティ経営が目指すのは、自動車リース業界や自動車産業、さらには金融機関や投資家の皆さまと連携し、より大きく社会に貢献できるように自動車ビジネスを進化させていくことです。今後も、財務面からEV推進や関連事業をバックアップし、新たなクルマ社会の実現を目指してまいります。

財務戦略

SMASを取り巻く外部環境

気候変動をはじめとする多様な社会的課題の解決と持続可能な社会の実現に向けて、金融が果たす役割がますます重要視されています。金融機関や投資家が、企業の業績だけでなく、ESG（環境、社会、ガバナンス）の視点を考慮して投融資を行うことで、ESG課題解決のための資金の流れを生み出していくというサステナブルファイナンスが拡大してきています。このような動きをさらに加速させていくための取り組みが官民を挙げて行われています。

サステナブルファイナンスの推進には、資金調達を行う企業の情報開示の充実が不可欠です。そのため、上場企業や公募社債発行企業に対しては、有価証券報告書におけるサステナビリティ情報の開示が義務化されています。

SMASの現状と課題

当社は、2020年にグリーンボンドを発行しました。資金用途は、グリーン適格基準を満たすハイブリッド自動車、EVおよび燃料電池自動車の新規購入資金に限定しています。当社がこれらの環境性能の高い車をリース車両としてお客さまに提供することに加え、エコドライブの啓発、適切なメンテナンスの実施、低燃費タイヤの利用などを総合的かつ継続的に行うことにより、走行時のCO₂排出量削減を支援しています。

2021年には、環境改善と社会貢献の双方を目的としたサステナビリティボンドを発行し、資金用途に、モビリティサービス「SMAS-Smart Connect」用の車載器購入資金を加えています。これらの車載器を使用した当社のサービスは、お客さまの安全運転を支援し、人とモノの移動に関する安心・安全な社会の実現に寄与しています。

当社はこれらESG債を継続的に発行していますが、毎回多くの投資家から投資表明（当社の取り組みに賛同し、社債を購入したことを公表すること）を得ています。

ESG債の発行には、第三者評価取得、資金用途確認、定期レポートなどの負担が生じますが、当社の取り組みに対する投資家からの評価も高く、長期安定資金の確保や当社経営への信頼を高めるなどの点でサステナビリティ経営推進に役立っています。

今後に向けて

サステナブルファイナンス推進の動きは今後も続く予想されます。開示基準や評価基準に関する国際的な動きは絶えず変化しており、新たなファイナンス手法も登場しています。最新の情報を常に把握し、適切な開示を行い、金融機関や投資家からの信頼に応えることが重要です。また、新しいファイナンス手法を研究し、活用可能なものは取り入れていきたいと考えています。

持続的な成長を達成するためには、金融市場が不安定なときでも揺るがない強固な財務基盤が必要です。これにより、投資を中断することなく、SDGsに向けた取り組みを続けていくことが可能になります。当社は、長期、固定金利での調達を中心とした安全性重視の資金調達を今後も続けていきます。さらに、調達ソースの多様化を進め、流動性枠を十分に確保し、返済・償還期日の分散を図ることで財務リスクの抑制に努め、サステナブルな事業拡大を支える基盤を強化していきます。

事業領域

当社は、グループで約102万台を保有・管理する自動車リースのリーディングカンパニーとして、リースだけでなく、環境対策、安心・安全、コスト削減などクルマに関わる質の高い総合車両管理サービスを提供することで、お客さまの課題を解決してまいりました。さらに、クルマを利用される皆さまの声に耳を傾け続けた経験と強みを活かし、シームレスな移動体験を届けるモビリティサービスを生み出し、提供しています。

●モビリティソリューションサービス (移動サポート)

SMAS-Smart Connect



車載器の取得データを活用した社用車管理の高度化とスムーズな移動体験をお客さまへ提供しています。

Mobility Passport



運転日報の電子化、アプリの予約機能の活用により、社用車の共有範囲を拡大したり、アプリから複数社のレンタカーを手配できます。

車両台数最適化



車両の運行実績を分析し、社用車の最適台数を提案します。

●自動車リース事業 (車両管理)

自動車リース



クルマを所有することで発生する煩雑な業務を一元化。お客さまに最適なクルマと管理・サポート体制を構築します。

安心・安全サービス



車両運行の実態に合わせた交通事故削減および安全運転マネジメント体制の構築と、効果的な車両の運用を実現します。

環境対策サービス



環境にやさしい車種提案やエコドライブの推進など、お客さまの環境貢献をサポートします。

コスト削減サポート



スケールメリットを活かした車両調達やメンテナンス、燃料費の削減など、あらゆる角度から車両関連のコスト低減を提案します。

SMASハイライト

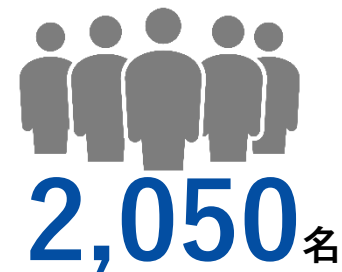
連結売上高



親会社株主に帰属する当期純利益



役職員数 (2024年4月1日時点: 単体)



グループ保有管理台数



当社乗用車仕入台数に占める
次世代車両の割合



サステナビリティボンド発行額 (累計実績)



リスクマネジメントソリューション提供者数



安全運転車載器取付台数 (累計実績)



提携メンテナンス工場数

